

令和3年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(年間) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生活指導の充実 ④情報発信の充実 ⑤健康管理 ⑥安全管理						
重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①学習指導の充実	アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試改革に向けて、アクティブラーニング、ICTを利用した授業を実践する。(国・地公・数・理・英による研究授業を行い、全職員で授業検討を行う) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 環境が整備され、ICTを利用しやすくなったことが、実施促進になっている。 ICTの技術力アップのために、研究授業を多く実施していただき、それを参考にすることの重要性を感じる。 進学対策のためにプレゼンテーションの学習に力を入れていく必要があるため、電子黒板を未設置の教室に導入したい。 コロナ禍ということもあり、グループワークやディスカッション等は制限があるため、実践できなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育への環境整備に注視されていることはとても嬉しい。 プレゼンテーションのウエイトを置いて進めて行きたい。 大学・短大・専門学校と、進路の希望別に特化した授業を意識して受けさせた方が、進学先のグレードがアップするのではないかと思う。 コロナで、発表、ディスカッションのチャンスは減っていると思う。
	ICT教育	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個人の端末を授業等で活用する場面を多く持ち、ICT教育の充実を図る。(電子教科書、スタディサプリ、google classroomなど) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にオンライン授業を実施することによりZOOMの活用にも慣れ、事前に用具の準備を生徒にさせ、遠隔でも実技がスムーズにできるようになった。 スタディサプリを活用した生徒の取り組みが始まったが、今後は配信内容の精査や生徒の取り組み状況の管理を徹底していきたい。 電子黒板があるクラスでは、デジタル教科書やパワーポイントを活用し授業を展開することができたが、ないクラスではICT教育の導入が難しい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナにより、オンライン - Zoom などが必要不可欠になってしまったが、早期より対応する環境を作ってくれたので、今の時代に上手にとけこめるようになっていくと思う。 コロナ対応などで急な休みの時など、オンライン授業がとても良かったと思う。 土曜のオンライン授業は時間が短くて、もう少し長くやっても良いのでは、と感じる時もある。 最近藤枝市内の小中学校では、Zoomよりもteamsというグループミーティングを使用しているようです。 オンライン、Zoomに慣れることは必要だが、やはり対面が大切である。 進学希望する生徒へのICT活用した教育推進に期待します。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
	就職指導	<ul style="list-style-type: none"> ・3年後の就職を意識させ、3年間を見通した指導計画を提示する。 ・徹底した面接指導及び基礎学力の充実を図り、希望する会社への内定を勝ち取る。 ・企業説明会の充実 企業に来校していただき、生徒が希望する企業から説明を受ける機会を設ける。(5月12社予定) 行政機関等の主催する各種企業説明会に生徒を参加させる。(年2回予定) 民間主催のオンラインによる企業説明会に積極的に参加する。(5月連休明けから実施) ・企業訪問や卒業生、行政機関、企業採用担当者等の講話を通して、企業への理解を深め、社会人になることへの意識高揚を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた段階的な指導がきちんとされている。 ・進路ガイダンスやオンライン説明会など、生徒が興味を持ちやすい内容、聞きやすい内容が多かった。特にオンライン説明会はコロナ禍での就職対策として大変良かった。 ・面接練習は手厚く実施できている。こういった実践練習は社会に出て行く生徒にとって、とても大切であると感じた。また、繰り返し練習することで生徒の満足度は上がっている。 ・基礎学力の向上を狙った朝テストの実施により、学習活動の意識付けを図ったが、十分な効果が出ていない。 ・入学試験前の企業見学、入社後の心得の講座と仕事をするための意識作りができています。 ・昨年よりホテル等の接客業の求人が増加したが、今後とも急速に回復するとは思われないので、職種に対する意識付けの指導を、工夫し、時間をかけて行っていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での就職100%。先生方の努力と的確な指導の下の結果だと思う。 ・夏休みの面接指導はかなり本人達にも自信となったようだ。 ・コロナにより、求人も厳しい時ではあるが、企業から求められる人材に近づけるように、基本的な礼儀、態度などを教えてもらって助かった。 ・内定をいただいてから会社からの通知、連絡、服装に関する事など、就職指導の先生へ相談しながら対応できたことも大変助かりました。 ・基礎知識を入学時より繰り返し実践することを心掛けて行けたら良いと思う。 ・今後、景気回復が見られれば良いが、厳しい時の対応も生徒に話をし、自覚させる必要があるかもしれない。 ・学校の精神、目標を理解し、実践している生徒は、職に就いても発揮されていると思う。
②進路指導の充実	進学指導	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学&中堅以上私大6名以上(一般・推薦・総合選抜を問わず) ・高3生への面接・小論文指導強化「チューター制(同じ教員が担当)で行う」 ・学力向上、進研模試で全国偏差値50以上の生徒を、大進・中高各クラス10%以上(特進は65%以上)育てる。 ・基礎力診断・スタディサポート・サブリ到達度テストの事前準備・結果データの活用を強化し、Dゾーンを減少させる。 ・スタディサブリ活用強化(動画、テキストを利用して定期試験に組み込み、学年として推進する) ・各生徒への個別学習指導(特に意欲の高い生徒や上位層の生徒に学習の機会や場を提供する) ・学習習慣定着(スコラ活用強化) ・進路目標づくりの充実(現在実施中の目標設定課題・進路G・適性検査・進路調査を融合させる) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進学指導課の先生を中心にチューター制で割り振り、個人指導をすることができた。特に看護系や国公立進学希望の生徒は安心して指導を受けることができ、効果は絶大であり、受験の好結果につながった。 ・国公立と中堅私大の合格者数と偏差値目標への到達は依然遠い。学校を挙げての学習と進学に重点を置く指導体制作りが必要である。また、一般入試でがんばれる学力を3年間でつけさせたい。 ・スタディサブリの到達度テストは、本校生徒のレベルに合っていると思われる。事前、事後指導を更に強化していくことで、個々のレベルを上げていきたい。 ・進学への意識付けをするために、模試の結果を参考にして、スタディサブリの更なる活用、声掛け、面談、資料請求、オープンキャンパスへの参加を促すなど、進路実現のためにあらゆる手段を講じていく。 ・適性検査や進路調査を複数回行うことで、自分の目標ややりたいものが明確になってくる。 ・学習習慣はまだ定着していないため、スタディサブリ、朝テストを通して少しずつでも定着をはかる必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個人指導は限られた時間内でたくさんの内容を教えることで、先生も大変だと思いますが、好結果を生んだので、可能であれば続けていただきたい。 ・今年も県内国公立大学への合格者が出たことでわかるように、学力の伸びがあらわれています。熱心な先生方の指導の賜です。 ・スポーツ系の大学進学が目立つが、せっかく調理科があるので、更に上を目指し、管理栄養士の資格がとれたり、調理の腕をみがく分野への進学希望者が出て良さそうだと思う。学校側からもっと進学をすすめても良いかと思う。 ・オープンキャンパスへの積極的な参加により、進学の意識を高めて欲しい。 ・先生も生徒もがんばっていると感じられます。一生懸命さが生徒、保護者に伝われば、それが評判になる。根気強く向き合って生徒を導いてあげてください。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
③生活指導の充実	礼法指導	<ul style="list-style-type: none"> 「情報収集→まとめ→分析→報告」を確実に実行し、教師相互の共通理解を図り、指導にあたる。 一報を通して迅速な情報共有に努め、対策を講じる。 礼法教育の実践として、次の指導を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①校長講話による「本校の伝統や心の整え方」の学習。感想を書くことによる振り返り ②「your steps」に従った美しい所作（初期指導、礼法の授業） ③会釈、挨拶の励行（朝終礼や登校時、授業の前後） ④食事作法を実践できるような会食（姿勢や作法） ⑤校風向上週間やマナーアップを通しての清楚な着こなし 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「一報」の活用により他学年の状況を把握でき、内容によってはクラスの指導に活かすこともできた。これにより情報の共有がかなりできているが、よりスピード感をもって対処できるようにしたい。 全体的には落ち着いて、きちんとした生徒が多いが、会釈・挨拶、職員室への出入りなど個人差が大きい。常識的なことやマナーができないのではなく、わからない生徒もいるように感じる。 礼法教育の実践については教職員の徹底次第だと思われるので、教職員が一体となった姿勢で指導にあたりたい。 今年度は、110周年記念式典があったことから、礼法の実践の場が多かった。式典終了後には、所作を外部的にも褒めていただくことができた。 お茶当番や会食指導は本校ならではの特色であるが、会食については職員、生徒共に実施する意義を改めて確認したうえで実施していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校で会えば、どの子も挨拶をしてくれる。学校内の出入りも必ず一礼してから行っている。 お茶当番の時には、校長先生や先生方からの指導がとても的確で、子供達が普段から教えてもらっていることが実践できて良かったと思う。 110周年の式典での対応はとても良かったと思う。このような式典を体験できたことは生徒にとっても良かったと思う。 知っている知らないでは大きな違いがあります。初めは“まね事”で結構。やり続けると人から一目置かれ、その作法、言葉遣いが身に付くものだと思う。順心で育った生徒からは自然と身体から出ています。 個人差はありますが、礼法の授業でもう一度、会釈、挨拶について実技を交えて、生徒に教えて欲しい。何事も経験することで自信にもつながり、身につけていくと思う。 礼法のマナーは、大学受験、就職試験における面接においてとても役に立っていると思う。礼法教育の徹底は、生徒の将来に大きく影響します。 教職員の一貫した指導が必要不可欠と思う。是非一丸となった指導を期待します。 子供達が規則を守ろうとする意識は自然と身につけていると感じる。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 「順心生としての自律」をめざして次の指導を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①清掃活動や整理整頓を通じた環境美化。私物の管理や清潔な生活感覚の育成（スマホについては朝終礼時に確認をする） ②週番活動を通じた校風高揚に貢献する姿勢の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> 清掃や週番では、生徒の熱心な活動の様子がうかがえる。できていない時には声かけをすると素直に従うので、日頃の指導の結果、生徒もやるべきことの理解はできている。その反面、やらされている感をぬぐい去れない生徒がいるのも事実である。もっと積極的に前向きに活動に取り組むように指導していきたい。 教室の整理整頓については、クラスで差がある。公の場所を利用することを意識させ、全員が気持ちよく生活できる場にするのを初期指導時に徹底させる必要がある。 スマホの校内持ち込み、収納庫での管理等、新しい項目も増えたが、特に大きなトラブルもなく、指導が行き届いている。これからも常に声掛けながら指導していくことを重視したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 清掃は“自分の心を整える為の作業”ですね。 清掃に関しては、比較的整備されているように思う。 幼稚園に清掃に来る生徒を観察すると、個人差が大きいと感じる。時間が経つのを待つ子。自ら汚れ、ゴミを見つける、またはきれいにしようとする子。 清掃分担のチーフを少し活発そうな生徒にすると、はっきりわかりやすく言ってくれることが期待でき、効率よくいきそうな感じがします。 週番活動については、朝早くから清掃活動を行っていました。学校をきれいにするという気持ちが大切で、今後、就職してから会社での清掃活動も積極的に取り組んで欲しい。 スマホの学校への持ち込みが良くなりました。そのため保護者からの連絡等、とても安心できるようになりました。トラブルもないため、子どもの自己判断がしっかりできていると思う。 電車内等で、順心生のスマホいじりは見たことがありません。 生徒指導が行き届いていると思う。 厳しいだけでは生徒は納得しません。厳しい中にも生徒に考えさせ、納得させることが大事かもしれません。 先生方も若い世代になってきているので、一緒に学んでいくという姿勢でもいいと思います。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
④情報発信の充実	学年通信 学級通信	<ul style="list-style-type: none"> 通信を保護者とのコミュニケーションの一つとして捉え、学年・学級の状況を伝える。 〔月1回の発行〕 	B	<ul style="list-style-type: none"> 月1回発行できなかった。学年や担任によって発行数に差があった。行事ごとの発行はできた。 生徒の学校での様子がわかるように、写真や活動内容を多く掲載するように心掛けた。 学級通信は重要だと思います。紙媒体の良さもありますが、回数を増やすなら、きずなネットやホームページを活用できると思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とのコミュニケーションとして大切な連絡網となりますので、学級通信の発行に御尽力ください。 保護者が少しでも学校のこと、生徒のことが理解できるように伝達してください。 クラスの様子や取り組みなど、保護者も見れるようにネットやホームページなどで生活の様子などがわかることができたら嬉しい。 月1回の学級通信はどは、やはり習慣付けが必要と思う。幼稚園では、総務主任（教務主任にあたる）、学年主任、副園長が月末の発行前に必ず点検、添削して発行しているので、先生によって発行の差はありません。大変ですが、月1回発行すると決めたなら、役職が見届けないとなかなかできないかもしれません。
	HP・SNSの活用	<ul style="list-style-type: none"> ホームページによる情報発信のタイムリー性と実用性の向上 本校公式フェイスブック、インスタグラムの設立、効果的な活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担当者の努力により、ホームページの更新は、随時行われ、タイムリーに発信できている。 受験生は必見るものなので、もっと多くの教員が関わるべきである。 月報やスケジュールが紙媒体ではなく、デジタル化されると良い。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを上手く活用していることで、情報発信を安心して閲覧できることは嬉しい。読みやすいと思います。 SNSの活用は今後需要度が増すと思います。 ホームページ等での情報発信をもう少し積極的に行って欲しい。 ホームページは個人情報もあり、公開は全部は難しいかもしれないが、順心を選択肢に入れている中学生以下の子供には、もっと楽しそうに写る生徒の姿を上手にアピールできたら良いのと思う。
⑤健康管理	健康管理 保健教育 健康相談	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を含めた日常の健康観察の実施（個人健康観察表・クラス健康観察カード） 新型コロナウイルス感染症に対するガイドラインの作成と状況に合わせた検討 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。その際、必要に応じスクールカウンセラーとの連絡を密にする。 感染症等の状況や生徒の成長、実態に即した健康教育の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 週一回（月曜日）、動向調査を実施し、生徒の様子をしっかりと確認することができた。 コロナ対策として、行事前後の消毒作業は保健室から発信され、職員全員で協力してできている。 新型コロナ集団感染、濃厚接触による自宅待機・検査等について対応に苦慮したが、保健所との情報交換と発生時の担当職員の冷静な対応で、それ以上に拡大することなく収束できた。その後も感染はあったが、その都度情報を整理して、適切な対応がされた。 感染対策が疎かになっていたところで、感染拡大を招いたこともあった。より一層引き締めたい。 カウンセリングを受けることで、生徒の違った視点からの情報を得られ、生徒指導に役立っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日々の健康管理、心のケアに注視していただいていることに感謝です。 新型コロナ対策は上手にできているようです。気を抜かないように継続してください。 週1回の動向調査は毎週きちんと行われていました。新型コロナ対応の時には早く自宅待機等の対応をしていただいたので、良かったと思う。 新型コロナの感染対策には学校もご苦労されていることと思います。感染者が出た場合には、速やかに保護者への情報提供をお願いします。 心の問題で登校が難しくなる生徒はいると思う。カウンセラー等の力を借りて、家庭ではどのように対応していくのがベストか、アドバイスをもらいたい。
⑥安全管理	避難訓練 防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 危機意識を高めるための地震と火災の避難訓練の実施（7月、11月） 集団下校訓練を行う。（7月） 消火訓練、救急対策講習会などの訓練を通し、職員の意識向上を図る。また、職員の役割分担の周知、徹底を図る。（7月職員研修実施） 	A	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練（器具）の説明や消火訓練の実施により、職員の危機管理意識が高まった。職員の役割分担も示され、具体的にイメージできるようになってきた。 生徒がハザードマップを確認する作業は、関心を高めるうえで非常に効果的であった。また、教室を利用したの煙り体験は、火災の危険を知る良い機会であった。 訓練を実施するにあたり、生徒への問題提起、意識づけが不徹底なところがあった。今後起り得るあらゆる可能性を想定し、指導を徹底させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を行い、教室での煙体験は前が見えないほど真っ白で、緊迫感がありました。火災にあった時のことを思うと、体験できて良かったと思う。 いざという時の危機的意識が高まり、とても良いと思います。 危機管理については、これからも身を持って体験することを実施していただけることを望みます。 自分の身を守るだけでなく、災害で負傷した人への救護活動、幼稚園と合同訓練をし、園児を守る活動を行い、地域でも必要とされる戦力になれば、訓練の意味がもっと大きくなると思う。